

3 事業概要

3.1 環境情報部環境活動推進課

3.1.1 企画調整業務

調査研究の企画調整、研究成果の公表及び環境全般についての普及啓発に関する業務を行った。

(1) 調査研究業務の企画調整

令和2年度に終了した調査研究課題について、研究結果説明会を実施した。

また、令和4年度の調査研究課題について、調査研究計画説明会において内部評価を、また調査研究推進委員会による外部評価を行った。

事業名又は項目	概要
ア 結果報告	令和2年度調査研究結果報告会を令和3年5月25日(火)に開催した。
イ 中間報告	令和3年度調査研究中間報告会を令和3年10月4日(月)に開催した。
ウ 課題の調整	令和4年度の調査研究課題の設定を行った。
エ 内部評価	令和4年度調査研究計画説明会を令和4年1月31日(月)に開催し、評価を行った。
オ 外部評価	令和4年度調査研究課題について、学識経験者4名で構成する調査研究推進委員会(委員長 桜美林大リベラルアーツ学群片谷教孝教授)を令和4年2月22日(火)に開催し、計画外部評価を行った。 <評価対象> ①マイクロプラスチックの排出実態の解明に関する研究(プロジェクト研究) ②走査型電子顕微鏡を用いたPM2.5の実態把握(地域課題研究) ③環境DNAを用いた丹沢山地におけるサンショウウオの分布調査手法の開発(地域課題研究)

(2) 研究成果の公表

調査研究成果を広く紹介するため、業績発表会及び環境研究合同発表会を開催するとともに、研究報告の発行、学会等への発表を行った。

※ゴシック表記の氏名は、当センター職員であることを示す。

事業名又は項目	概要
ア 環境研究合同発表会	当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」の主催により、令和3年6月16日(水)にオンラインにて、「第45回環境研究合同発表会」を開催した。参加者68人 <当センターの演題> 神奈川県におけるPM2.5中のタンパク質の実態把握(石割隼人・武田麻由子【調査研究部】)
イ 業績発表会	令和3年10月29日(金)に、「環境科学センター業績発表会」をオンライン開催した。参加者71人 <演題> ① 神奈川県気候変動適応センターの取組について(齊藤裕佳・田澤慧【環境情報部】) ② 2020年に神奈川県で発生した異臭事案について (1) 異臭発生の概要と環境科学センターの取組について(小松宏昭【環境情報部】) (2) 異臭発生時の成分分析と原因究明に向けた検討結果について(武田麻由子【調査研究部】) (3) 高解像度気象シミュレーションを用いた異臭ガスの移流解析結果について(松田景吾【(国研)海洋研究開発機構】)

事業名又は項目	概要
ウ 研究報告の発行	<p>「令和3年版(2021)神奈川県環境科学センター研究報告 第44号」を令和4年1月に当センターウェブサイトに掲載した。</p> <p><内容></p> <p>①相模湾漂着マイクロプラスチックに含まれる PCB の発生源の検証(小澤憲司【企業庁浄水課】、三島聡子【湘南地域県政総合センター】)</p> <p>②箱根山大涌谷の蒸気井および自然噴気孔から放出される火山ガス組成の変化(代田寧【調査研究部】、十河孝夫【大気水質課】、五十嵐恵美子【調査研究部】、藤松淳、板寺一洋【温泉地学研究所】)</p> <p>③神奈川県における最近6年間の酸性雨の状況(2015年4月～2021年3月)(川原一成、瀧邊一弥、代田寧【調査研究部】)</p> <p>④熱中症リスク把握を目指した神奈川県内の WBGT(wet-bulb globe temperature: 暑さ指数)の分布推計方法の検討(田澤慧【環境情報部】)</p>
エ 温泉地学研究所の研究報告	<p>温泉地学研究所が発行する「神奈川県温泉地学研究所報告第53巻」(令和3年12月発行)に論文掲載した。</p> <p><当センターの掲載内容></p> <p>第4期中期研究計画「箱根火山の活動に関する研究」の総括(萬年一剛、安部祐希【温泉地学研究所】、代田寧【調査研究部】、道家涼介、原田昌武、本多亮【温泉地学研究所】、行竹洋平【東京大地震研究所】)</p>
オ 学会等への発表	<p>調査研究成果について、論文等の発表(表3.1.1-1、表3.1.1-2)を行った。</p>
カ その他	<p>調査研究その他の業績により、職員が令和3年度中に受けた表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月24日(水)「神奈川県環境農政局長表彰」(県民参加型調査「かながわ暑さ調べ」実施チーム【環境情報部】) 令和3年12月23日(木)「全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰」(石割隼人【調査研究部】) 令和4年2月3日(木)「全国環境研協議会会長賞」(武田麻由子【調査研究部】) 令和4年3月29日(火)「神奈川県環境農政局長表彰」(「LMSを利用した環境活動指導者養成講座」実施チーム【環境情報部】)

表 3.1.1-1 論文等発表 (* : 査読付き論文)

著者【所属】	題目	学会誌等名称
田和佑脩、矢吹芳教、野呂和嗣【大阪府立環境農林水産総合研究所】、田澤慧【環境情報部】水谷聡、杉浦隆介【大阪市立大】、中村智【大阪府立環境農林水産総合研究所】*	PRTR データを活用した化学物質取扱量の推計	リスク学研究、30(3)、177-185 (2021)
武田麻由子【調査研究部】	山岳地の大気汚染	資源循環かながわさーきゅれーん、17号、18-19 (環境科学センターだより) (2021)
菊池宏海、難波あゆみ、五十嵐恵美子、川原一成【調査研究部】、三島聡子【湘南地域県政総合センター】、坂本広美【調査研究部】	相模湾西部沿岸で採取した特徴的な形態を有するマイクロプラスチックの発生源調査	全国環境研会誌、vol. 46 No. 2、18-21 (2021)

著 者【所属】	題 目	学会誌等名称
横島潤紀【環境情報部】	日本国内における交通騒音の曝露量と高度の睡眠妨害の反応率との関係	音響技術、No.194、vol. 50(2)、78-83(2021)
森長誠【神奈川大】、Thu Lan Nguyen【島根大】、 横島潤紀【環境情報部】 、下山晃司【空港支援機構】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大】*	The Effect of an Alternative Definition of “Percent Highly Annoyed” on the Exposure-Response Relationship: Comparison of Noise Annoyance Responses Measured by ICBEN 5-Point Verbal and 11-Point Numerical Scales	Int. J. Environ. Res. Public Health 18(12)、6258(2021)
森原崇【石川高専】、 横島潤紀【環境情報部】 、松本泰尚【埼玉大】*	Effects of Noise and Vibration Due to the Hokuriku Shinkansen Railway on the Living Environment: A Socio-Acoustic Survey One Year after the Opening	Int. J. Environ. Res. Public Health、18(15)、7794(2021)
小松宏昭【環境情報部】	微小粒子状物質 (PM2.5) の状況について	資源循環かながわさきゅれーしょん、18号、18-19 (環境科学センターだより) (2021)
横島潤紀【環境情報部】	日本国内における交通騒音の曝露反応関係 — 社会音響調査データアーカイブ(SASDA)を利用した二次分析 —	騒音制御、vol145、No4、163-168(2021)
林健太郎【ベネック振動音響研究所】、 横島潤紀【環境情報部】	環境振動に関する社会調査のレビュー	騒音制御、vol145、No4、173-176(2021)
小澤はる奈、馬場健司【東京都市大】、木村道徳【滋賀県琵琶湖環境科学研究センター】、 齊藤裕佳、田澤慧【環境情報部】	神奈川県相模湾沿岸地域の自然災害を入り口とする気候変動影響や適応に対するステークホルダーの関心態度の分析	土木学会論文集G(環境)、77、No5、第29巻、I_341-I_348(2021)
代田寧【調査研究部】	箱根山大涌谷の火山ガスについて — 自然研究路内の火山ガス濃度 —	資源循環かながわさきゅれーしょん、19号、16-17 (環境科学センターだより) (2021)
横島潤紀【環境情報部】 、森長誠【神奈川大】、辻村莊平【茨城大】、下山晃司【空港支援機構】、森原崇【石川高専】*	Representative Exposure- Annoyance Relationships Due to Transportation Noises in Japan	Int. J. Environ. Res. Public Health、18(20)、10935(2021)
代田寧【調査研究部】 、大場武【東海大】、谷口無我【気象庁気象研究所】、十河孝夫【大気水質課】、原田昌武【温泉地学研究所】*	箱根山火山ガス組成による火山活動予測-火山防災への活用-	地学雑誌、130 (6) 783-796(2021)

著者【所属】	題目	学会誌等名称
三島聡子【湘南地域県政総合センター】、小澤憲司【企業庁浄水課】、 中山駿一 、 菊池宏海 、 難波あゆみ 【調査研究部】、片岡智哉、二瓶泰雄【東京理科大】*	流域～河川～海岸におけるプラスチック片堆積状況の比較解析の試み ～神奈川県引地川流域を例に～	水環境学会誌、vol145、No1、11-19(2022)
齊藤裕佳 【環境情報部】	神奈川県気候変動適応センターについて	資源循環かながわさーきゅれーしょん、20号、15-16（環境科学センターだより）（2022）

表 3.1.1-2 口頭発表（*：ポスター発表）

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月（開催場所）
長谷部勇太 【調査研究部】	環境 DNA 技術を用いた水生昆虫網羅解析～データベースとプライマーが解析結果に与える影響を中心に～	水生昆虫談話会第 466 回例会令和 3 年 4 月（オンライン開催）
中山駿一 【調査研究部】、三島聡子【湘南地域県政総合センター】、小澤憲司【企業庁浄水課】 菊池宏海 、 難波あゆみ 【調査研究部】、二瓶泰雄【東京理科大】	相模湾流入河川におけるマイクロプラスチックの実態	第 29 回環境化学討論会令和 3 年 6 月（千里ライフサイエンスセンター(会場及びオンライン開催)）
横島潤紀 【環境情報部】、森原崇【石川高専】、松本泰尚【埼玉大】	Effects of the railway category and noise on vibration annoyance	ICBEN2021 令和 3 年 6 月(オンライン開催)
森長誠【神奈川大】、 横島潤紀 【環境情報部】、辻村荘平【茨城大】、下山晃司【空港支援機構】、森原崇【石川高専】、矢野隆【熊本大】*	Exposure-response relationship of self-reported sleep disturbance derived from Japanese socio-acoustic surveys	ICBEN2021 令和 3 年 6 月(オンライン開催)
Catherine Marquis-Favre、Etienne Parizet【リヨン大】、森原崇【石川高専】、 横島潤紀 【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】	Cross-cultural laboratory study on combined noise and vibration of Shinkansen pass-by	ICBEN2021 令和 3 年 6 月(オンライン開催)
来栖可奈、Sunao Kawakami、日置尚之、高井則之【日本大】、 長谷部勇太 【調査研究部】、増田絢、松本淳【日本大】	Molecular characterization of Myxobolus nagaraensis infecting freshwater gobies	The World Association for the Advancement of Veterinary Parasitology (WAAVP) 2021 令和 3 年 7 月(オンライン開催)
林健太郎【ベネック振動音響研究所】、松本泰尚【埼玉大】、 横島潤紀 【環境情報部】、東田豊彦【積水ハウス】	水平振動評価における振動の継続時間の影響に関する検討	日本建築学会大会(東海) 令和 3 年 9 月(オンライン開催)
松本泰尚【埼玉大】、森原崇【石川高専】、 横島潤紀 【環境情報部】、林健太郎【ベネック振動音響研究所】	交通振動・騒音同時暴露に対する心理的応答評価に関する一検討	日本建築学会大会(東海) 令和 3 年 9 月(オンライン開催)
武田麻由子 【調査研究部】、十河孝夫【大気水質課】、谷脇徹【自然環境保全センター】	丹沢山地におけるパッシブサンプラーを用いたオゾンリスク評価	第 62 回大気環境学会年会 令和 3 年 9 月(オンライン開催)

小松宏昭【環境情報部】、武田麻由子、石割隼人【調査研究部】、菅田誠治【国立環境研究所】	2020年に神奈川県で発生した異臭事案について	第62回大気環境学会年会 令和3年9月(オンライン開催)
石割隼人、武田麻由子【調査研究部】	神奈川県におけるPM2.5に含まれるタンパク質の季節変動	第62回大気環境学会年会 令和3年9月(オンライン開催)
武田麻由子【調査研究部】、十河孝夫【大気水質課】、青野光子【国立環境研究所】*	ストレスを曝露したブナ葉における遺伝子発現解析	第62回大気環境学会年会 令和3年9月(オンライン開催)
櫛島智恵子、高橋和清、星純也【東京都環境科学研究所】、福岡有希子、榎原正敬、小宇佐友香【横浜市環境科学研究所】、後藤有紗、島美倫、武蔵沙織、風見千夏【千葉市環境保健研究所】、小松宏昭【環境情報部】、武田麻由子、石割隼人【調査研究部】、福永顕規、沼田和也、重水洋平【川崎市環境総合研究所】	南関東地域における大気環境中のVOC調査(1)-個別成分濃度-	第62回大気環境学会年会 令和3年9月(オンライン開催)
十河孝夫【大気水質課】、松井孝典【大阪大】、森長誠【神奈川大】、細見幸太郎【大阪大】、小松宏昭【環境情報部】	機械学習による火山ガス濃度基準超過予測	第62回大気環境学会年会 令和3年9月(オンライン開催)
小澤はる奈、馬場健司【東京都市大】、木村道徳【滋賀県琵琶湖環境科学センター】、齊藤裕佳、田澤慧【環境情報部】	神奈川県相模湾沿岸地域の自然災害を入り口とする気候変動影響や適応に対するステークホルダーの関心態度の分析	第29回地球環境シンポジウム(土学会地球環境委員会) 令和3年9月(オンライン開催)
菊池宏海、難波あゆみ、五十嵐恵美子、川原一成、坂本広美【調査研究部】	人工芝に由来するマイクロプラスチックの発生過程の調査	全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会 令和3年10月(オンライン開催)
長谷部勇太【調査研究部】、半田佳宏【生物技研】、関将史【プラントバイオ】	環境DNA技術を用いた底生動物網羅解析手法開発の取組	第48回環境保全・公害防止研究発表会 令和3年11月(オンライン開催)
長谷部勇太【調査研究部】、源利文【神戸大】、竹中將起【筑波大】、半田佳宏【生物技研】、関将史【プラントバイオ】、白子智康【いであ】*	捕獲調査の代替は可能?-プライマーの選定とDNAデータベース整備が大型無脊椎動物の検出に与える影響-	環境DNA学会第4回大会 令和3年11月(オンライン開催)
石割隼人【調査研究部】	神奈川県におけるPM2.5中のタンパク質の定量	全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会 令和3年12月~令和4年3月
大枝亮【筑波大】、須之内朋哉、国末達也【愛媛大】、坂本広美【調査研究部】、田島木綿子【国立科学博物館・筑波大】	日本沿岸にストランディングしたアカボウクジラ科鯨類の胃より検出された海洋プラスチックの化学的解析の試み	日本セトロロジー研究会第31回大会 令和3年12月(オンライン開催)
横島潤紀【環境情報部】	実環境における自動車交通騒音の実態調査	自動車技術会シンポジウム 令和3年12月(オンライン開催)
長谷部勇太【調査研究部】	環境DNAを用いた魚類調査の実施とその活用について	第37回全国環境研究所交流シンポジウム 令和4年2月(オンライン開催)

長谷部勇太【調査研究部】	環境 DNA よる水生昆虫網羅解析 (第2報) ～竹中氏開発の昆虫プライマー を使った試行結果～	水生昆虫談話会第477回 例会 令和4年2月(オンライン 開催)
--------------	---	---

(3) 人材育成

県・市町村環境担当職員研修等を行った。

事業名又は項目	概 要
ア 大気水質等担当職員研修	<p>県及び市町村の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>① 法令研修 主要な環境保全関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き等に関する計17講座の研修を、県職員を対象に令和3年5月19日から5月24日までの間、Skypeによるオンライン研修を実施した。受講者延べ40名 また、県内市町村を対象に、庁内職員を対象に行ったSkypeによるオンライン研修の内容を収録したDVD-Rを送付し、机上で受講する方式の研修を実施した。受講者延べ15名</p> <p>② 技術研修 水質事故の概要等3講座を令和3年8月20日に実施した。 アスベスト対策の概要等8講座は集合式研修を取りやめ、Skypeによるオンライン研修を令和3年10月21日に実施した。 また、騒音・振動及び低周波音の測定について等2講座を令和3年11月26日及び11月30日に実施した。 更に、臭気指数測定実習は、Zoomによるオンライン研修を令和3年12月15日に実施した。 以上、令和3年度に計15講座を実施した。受講者延べ146名</p>
イ 廃棄物対策担当職員研修	<p>県及び廃棄物処理法政令4市の職員を対象に、研修を行った。</p> <p>① 法令研修 廃棄物関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き、行政検査の方法等に関する計14講座の研修を、県職員を対象に令和3年6月2日から6月4日までの間、Skypeによるオンライン研修を実施した。受講者延べ49名 また、県内市町村を対象に、庁内職員を対象に行ったSkypeによるオンライン研修の内容を収録したDVD-Rを送付し、机上で受講する方式の研修を実施した。受講者延べ18名</p> <p>② 技術研修 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき、令和3年度は中止した。</p>
ウ 環境行政新任リーダー研修	<p>県のリーダー級職員を対象に、資料送付による机上研修を実施した。</p> <p>実施期間 令和3年5月24日から6月21日まで 内 容 「環境部の主な業務」ほか 受 講 者 対象者16名</p>
エ 中堅環境系技術職員スキルアップ研修	<p>「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき、令和3年度は中止した。</p>
オ 県・市町村環境学習研修	<p>県及び市町村の環境学習担当職員を対象に、環境教育や環境学習の実践等に関する研修を令和3年6月1日から6月18日まで資料送付による机上研修として行った。受講者延べ30名。 また、令和3年6月30日(水)にウェブ会議システムを用いて意見交換会を行った。参加者延べ19名</p>

事業名又は項目	概要
カ 市町村環境業務担当職員研修	市町村の環境業務担当職員を対象に、水質調査委託業務管理に役立てるため「亜硝酸性窒素分析と精度管理の基礎」に関する研修資料を保存したDVD-Rを令和3年9月16日に送付し机上研修として行った。受講者延べ8名
キ 研修派遣	環境省環境調査研修所主催研修がコロナ禍により中止

(4) 依頼に基づく職員の派遣

市町村、団体等から要請のあった出前講座等への講師派遣、及び審議会等への委員派遣を行った。

事業	概要
ア 講師派遣	大学・公共機関等の研修会、講習会への講師派遣を行った。 14回 (表3.1.1-3)
イ 出前講座	「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき、令和3年度は中止とした。
ウ 審議会、委員会等への委員受嘱	市町村の審議会、国の委員会、県の各種協議会等への委員を受嘱した。 <派遣先> ① 市町村の審議会等 ・平塚市環境審議会 ・鎌倉市生活環境整備審議会 ・茅ヶ崎市環境審議会 ・厚木市環境審議会 ・寒川町環境審議会 ・二宮町環境審議会 ② 国の設置した委員会等 ・公害防止管理者等国家試験員委員会 ((一社)産業管理協会) ・車外騒音部門委員会 ((公社)自動車技術会【環境省委託】) ・アスベスト分析法委員会委員、APT委員会委員及びAPT実行委員会委員 ((一社)日本環境測定分析協会【環境省委託】) ・我が国の環境騒音に係るあり方に関する検討会 (中央復建コンサルタンツ㈱【環境省委託】) ・騒音規制法及び振動規制法に基づく特定施設の見直し検討に係る検討会 ((公社)日本騒音制御工学会【環境省委託】) ・嗅覚検査委員会 ((公社)におい・かおり環境協会【環境省委託】) ・新幹線鉄道騒音対策に関する検討委員会 (㈱ニューズ環境設計【環境省委託】) ・化学物質環境実態調査分析法開発等検討会議系統別部会 (第二部会) ((一財)日本環境衛生センター【環境省委託】) ・富士箱根伊豆国立公園仙石原湿原保全及び利用に係る検討・計画計画策定業務検討会議 (㈱野生動物保護管理事務所【環境省委託】) ・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法改正検討委員 ((一社)廃物資源循環学会) ・POPs 及び関連物質等に関する日韓共同研究実務者会議委員 ((国研)国立環境研究所) ・技術士試験(第二次試験)試験委員 ((公社)日本技術士会) ・道路交通振動検討会 (㈱エイト日本技術開発) ・JIS 原案 (JIS C 1510) 作成委員会委員 ((公社)日本騒音制御工学会) ③ 県の協議会等 ・神奈川県青少年科学体験活動推進協議会 (神奈川県立青少年センター)

表 3.1.1-3 講師派遣

所属	講師	演題等	派遣先（主催機関）	実施日
環境科学センター	長谷川陽一	第 217 期 消防職員初任教育「理学」	神奈川県消防学校	令和 3 年 4 月 26 日(月) ～ 令和 3 年 5 月 31 日(月)
調査研究部	代田寧 難波あゆみ 黒澤のりあ 五十嵐恵美子	慶應義塾大学院政策・メディア研究科「環境測定演習」「マイクロプラスチック資料の採取実習」	慶應義塾大環境情報部環境委のベータコース	令和 3 年 6 月 3 日(木)
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチックってなんだろう	神奈川県地球温暖化防止活動推進センター	令和 3 年 7 月 6 日(火)
調査研究部	長谷部勇太	川名清水谷戸地区「水生生物調査」	NPO 法人 藤沢グリーンスタッフの会	令和 3 年 7 月 28 日(水) 令和 3 年 7 月 29 日(木)
調査研究部	長谷部勇太	平塚市金目地区「水生生物調査」	金目川水系流域ネットワーク	令和 3 年 8 月 1 日(日)
調査研究部	長谷部勇太	厚木市中津川中三田地区「生き物しらべ教室」	神奈川工科大	令和 3 年 8 月 10 日(火) 令和 3 年 8 月 16 日(月) 令和 3 年 8 月 23 日(月)
調査研究部	坂本広美	マイクロプラスチック問題	電子顕微鏡でミクロを観る会	令和 3 年 11 月 7 日(日)
調査研究部	坂本広美	専門科目「環境ガバナンス論」: 神奈川県の沿岸域におけるマイクロプラスチック問題	東京都市大	令和 3 年 12 月 1 日(水)
調査研究部	坂本広美	神奈川県の取り組む技術課題	横浜国大大学院	令和 3 年 12 月 1 日(水) 令和 3 年 12 月 22 日(水)
環境情報部	横島潤紀	騒音・振動の法令	(公財) 日本騒音制御工学会	令和 3 年 12 月 9 日(木)
環境情報部	横島潤紀	「WHO 環境騒音ガイドライン (道路交通騒音)」	(一財) 日本自動車研究所	令和 4 年 1 月 13 日(木)
環境科学センター	長谷川陽一	神奈川県気候変動適応センターの取組について	平塚地区環境対策協議会	令和 4 年 2 月 17 日(木)
環境科学センター	長谷川陽一	相模湾におけるマイクロプラスチックの現状と課題	神奈川県西部広域行政協議会	令和 4 年 2 月 22 日(火)
調査研究部	難波あゆみ	海洋汚染問題とプラスチック分解微生物研究の今	神奈川工科大	令和 4 年 3 月 12 日(土)

表 3.1.1-4 出前講座

「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき令和 3 年度は中止とした。

(5) 広報及び普及啓発

当センターの事業に関する広報等を行った。

事業名又は項目	概要
ア 記者発表等	募集案内（参考資料送付）を 1 件行った。 <発表事項> 令和 3 年度環境学習リーダー養成講座オンライン開催のご案内(令和 3 年 8 月 26 日(木))

事業名又は項目	概要
イ 施設公開等	環境科学センター施設公開、子ども科学探検隊（神奈川県青少年科学体験活動推進協議会）、施設見学（随時）は「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき中止とした。
ウ イベント参加	コロナ禍により中止した。
エ 年報の発行	「令和3年版(2021)年報 第53号」を令和4年3月に発行し、当センターウェブサイトに掲載した。
オ インターンシップ学生の受入れ	「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき令和3年度は中止した。
カ 職場体験の受入れ	「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき令和3年度は中止した。

(6) 他機関との連携

県内及び全国の地方公共団体環境研究機関と交流・連携し、調査研究に関する技術の向上を図った。

事業名又は項目	概要
ア 神奈川県市環境研究機関協議会	<p>当センターと横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所で構成する「神奈川県市環境研究機関協議会」において、情報交換や研究成果の合同発表会、研修会を開催した。</p> <p><内容></p> <p>① 定例会 第1回 令和3年5月11日(火) 横浜市環境科学研究所 会議室 第2回 令和4年2月7日(月) オンライン開催</p> <p>② 第45回環境研究合同発表会(再掲) 令和3年6月16日(水) オンライン開催 参加者 68人</p> <p>③ 研修会 令和4年2月28日(月) ハイブリット開催 参加者 36人 講演「半世紀にわたる大気汚染濃度のトレンド対策」 ～光化学大気汚染を中心として～ 一般財団法人 大気環境総合センター代表理事・愛媛大名誉教授 若松伸司 氏</p>
イ 全国環境研協議会	<p>全国環境研協議会（地方自治体の設置する環境保全及び公害防止施策に係る試験研究機関で組織）に参画し、機関相互の運営に関わる連絡、情報交換、共同調査研究等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 第50回総会 令和4年2月3日(木) 熊本県保健環境科学研究所 (Webex Meetings)によるウェブ会議</p> <p>② 研究・発表会等の事業 ・国立環境研究所とのⅡ型共同研究(11課題中4課題に参画) 「植物の環境ストレス影響評価とモニタリングに関する研究」 「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」 「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」 「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」</p> <p>③ 環境省の施策及び予算に対する要望書の提出</p> <p>④ 酸性雨全国調査への参画</p>

事業名又は項目	概 要
	<p>⑤ 全国環境研協議会会長賞（再掲） 令和4年2月3日（木） 熊本県保健環境科学研究所（Webex Meetings によるウェブ会議） 受賞者 武田麻由子【調査研究部】</p> <p>また、関東甲信静エリアの16都県市の地方公共団体環境研究所で構成する関東甲信静支部において情報交換等を行った。</p> <p><内容></p> <p>① 支部総会 令和3年12月16日（木） 書面審議</p> <p>② 専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気専門部会 令和4年3月10日（木） 書面開催 ・水質専門部会 令和3年10月29日（金） ウェブ開催 ・水質専門部会東京湾連絡会 令和3年11月1日（月） 書面開催 ・騒音振動専門部会 令和4年2月22日（火） 書面開催 <p>③ 全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰（再掲） 令和3年12月23日（木） 受賞者 石割隼人【調査研究部】</p>
ウ 神奈川県公害防止推進協議会	<p>横浜市、川崎市及び神奈川県で構成する神奈川県公害防止推進協議会のPM2.5等対策検討部会において、県内の微小粒子状物質の実態と発生源を把握、また光化学オキシダントにかかる調査研究を行うため、共同で試料採取及び分析、解析を行っている。令和3年度は、令和元年度に実施したアンモニア調査についての解析を実施した。また、オリンピック・パラリンピック実施に伴う社会情勢の変化による大気質変化を把握するため、VOC等調査を実施した。</p> <p><実績> 令和3年度夏季VOC調査5回試料採取（VOC60試料、アルデヒド類60試料）</p>
エ 関東地方大気環境対策推進連絡会	<p>関東甲信静地方の1都9県7市で構成する関東地方大気環境対策推進連絡会において、微小粒子状物質の広域的な汚染実態と発生源を把握するため、令和2年度の季節別の構成成分の把握や高濃度日を対象とした解析を行った。また、オリンピック・パラリンピック実施に伴う社会情勢の変化による大気質変化を把握するため、より広域的なVOC等調査を実施した。令和2年度に実施したVOC等調査結果を解析し、報告書を作成した。</p> <p><実績> 令和3年度夏季VOC調査5回試料採取（VOC60試料、アルデヒド類60試料）</p>

3. 1. 2 環境学習業務

環境学習講座の開催、環境学習施設の県民利用、環境学習情報の発信等に関する業務を行った。

(1) 環境学習講座の開催

環境問題や環境保全活動に関心のある県民向けに環境学習講座を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン開催とし、集合形式の講座は中止した。

事業名又は項目	概要		
ア 環境学習リーダー養成講座	<p>地域で環境学習活動を行う人材（環境学習リーダー）の育成を目的として、意欲のある県民を対象に、環境問題の基礎知識や活動手法等に関する講座をウェブ会議システムによりオンライン開催した。なお、オンデマンド配信は令和4年1月10日まで実施した</p> <p><実績> 受講者 93人 修了者 61人（講座の8割以上を受講した者）</p>		
	開催日	講座のテーマ	講師
	令和3年10月7日(木)	神奈川県環境の現状と課題・気候変動と県の取り組みについて	神奈川県環境科学センター 環境活動推進課 課長 小松宏昭 副技幹 齊藤裕佳
		気候変動とその予測についての考え方	(国研)国立環境研究所 主任研究員 廣田渚郎
	令和3年10月17日(日)	「かながわ水源の森林づくり」の取組について	神奈川県水源環境保全課 副技幹 村松広
		生物多様性と自然共生～守るべき“豊かさ”とは何かを考える～	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 国際生態学センター／(本部)生物多様性と森林ユニット(兼任) 主任研究員 矢ヶ崎朋樹
	令和3年10月27日(水)	市民活動について	(一社)ソーシャルコーディネートかながわ 代表理事 手塚明美
SDGsの本質と取組のポイント		(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) リサーチマネージャー 小野田真二	
令和3年11月7日(日)	環境学習プログラムの設計に役立つ基礎理論	国土館大 専任講師 国立環境研究所 客員研究員 森朋子	
	子どもに伝える環境学習「植物ジュニアレンジャー養成講座」から	(非営)神奈川県環境学習リーダー会 副代表 吉岡嗣二郎	
令和3年11月18日(木)	環境問題の基礎知識～SDGsは誰かの目標ではなく、私の、あなたの目標です～	(非営)持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢良子	
	食品ロスの削減に向けて～食品ロスの現状と課題～	神奈川県資源循環推進課 副技幹 小島公平	

イ 環境活動講座	「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき中止とした。		
ウ 環境スキルアップ講座	環境学習リーダーのスキルアップを目的に、ウェブ会議システムを用いてオンライン開催した。なお、オンデマンド配信は開催日の翌月末まで実施した。 <実績> 第1回 受講者延べ106人 第2回 受講者延べ67人		
	開催日	講座のテーマ	講師
	第1回 令和3年9月30日(木)	プラスチックごみのリサイクルと処理・処分方法の移り変わり～環境科学センターにおける研究結果も参考に～	神奈川県環境科学センター 調査研究部 部長 坂本広美
	第2回 令和3年12月10日(金)	バケツ一杯の水を通して見る魚たちの世界～環境 DNAの基本から実践的な魚類調査まで～	東北大 統合生態研究室 教授 近藤倫生 助教 大野ゆかり

(2) NPO と連携した環境学習事業の実施

特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会と共催で例年行っている小学生（高学年）を対象とした夏休み子ども環境体験教室は、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき令和3年度は中止とした。

(3) 環境学習施設利用者支援

環境学習施設及び環境学習用資機材の貸出を行った。

事業名又は項目	概 要		
ア 環境学習施設の貸出	環境学習施設は、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」に基づき令和3年度は貸出を中止とした。		
	施設名称	主な貸出先等	施設利用数※
	環境学習室	環境保全団体（自主講座の拠点施設として利用）	0人（0件） 【0人（0件）】
	実習室	環境保全団体（pH、COD等の水質分析や自主講座の拠点施設として利用）	0人（0件） 【0人（0件）】
	※【 】内は、当センター主催講座における件数で内数。		
イ 環境学習用資機材の貸出	環境学習用のビデオ・DVD、環境測定用機器、観察機器等の貸出を行った。 実績 延べ45台（38件）（ ）内は、貸出を行った件数		

(4) 環境学習情報の提供

環境学習のためのホームページを運用し、環境学習に関する情報を発信した。

事業名又は項目	概 要
ア かながわ環境学習ナビ	環境学習講座開催情報、施設利用案内、教材ダウンロード、環境活動人材情報検索等の情報を提供した。アクセス数 59,893件 URL https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyougakushu/index.html

3. 1. 3 神奈川県気候変動適応センター

気候変動適応法に基づく気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行った。

(1) 情報収集・整理

気候変動に関連する公開情報等を収集整理するとともに、夏季の暑さ指数や気温の観測を行った。

事業名又は項目	概要
ア 収集・整理した既存情報	公開情報等から気温や降水量の変動及びその影響に関する情報を集約し、本県に関連する部分を切り出して整理し、活用方法を検討した。
イ 県民参加型調査「かながわ暑さ調べ」	県内の熱中症リスクを把握するとともに、身近な気候変動影響である「暑熱」に係る暑さ指数について、県民が正確な知見を身に付け、気候変動への適応に「自分事」として取り組み、気候変動適応策の必要性を理解してもらうことを目的として、県民参加型による県内の暑さ指数一斉測定調査「かながわ暑さ調べ」を実施した。
ウ 夏期気温測定	ヒートアイランド現象の実態把握を目的として、横浜、川崎両市を除く県内の小学校の百葉箱での夏期気温測定を行い、横浜、川崎両市からは同種データの提供を受けて、県内における夏期の気温分布を取りまとめた。

(2) 分析・影響予測

気候変動影響に関する潜在的ニーズ調査を行ったほか、県内の熱中症リスクに関する分析を行った。

事業名又は項目	概要
ア 潜在的ニーズ調査	厚木市を中心とする相模川流域において、気候変動影響に関する潜在的なニーズや課題を明らかにするため、地域の関係者（ステークホルダー）へのヒアリング等による調査を行った。
イ 熱中症リスクに関する分析	熱中症リスクの分析手法の検討のため、気象衛星による日射量の測定結果等の公開データを活用した暑さ指数の推計方法を検討した。

(3) 情報発信

中学生向けの気候変動に関する教育プログラムを作成したほか、教職員向けの気候変動対策講座の実施及び神奈川県気候変動適応センターリーフレットの作成により、気候変動適応や県適応Cの取組の紹介を行い、気候変動適応の認知度向上を図った。

事業名又は項目	概要		
ア 教育プログラムの作成	気候変動問題に対する若年層の関心や理解を深めるため、主に中学校の授業での活用を想定した気候変動に関する学習用教材を作成し、「かながわ気候変動WEB」で公開した。		
イ 教職員向け気候変動対策講座	学校教育における気候変動に関する教育を促進するため、教職員を対象に研修を実施した。		
	会場等（実施方法）	実施日	参加人数
	オンライン	令和3年8月18日(水)	25人
ウ リーフレットの作成	神奈川県気候変動適応センターの取組や、神奈川県における気候変動の状況を紹介するリーフレットを作成した。		